

次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）

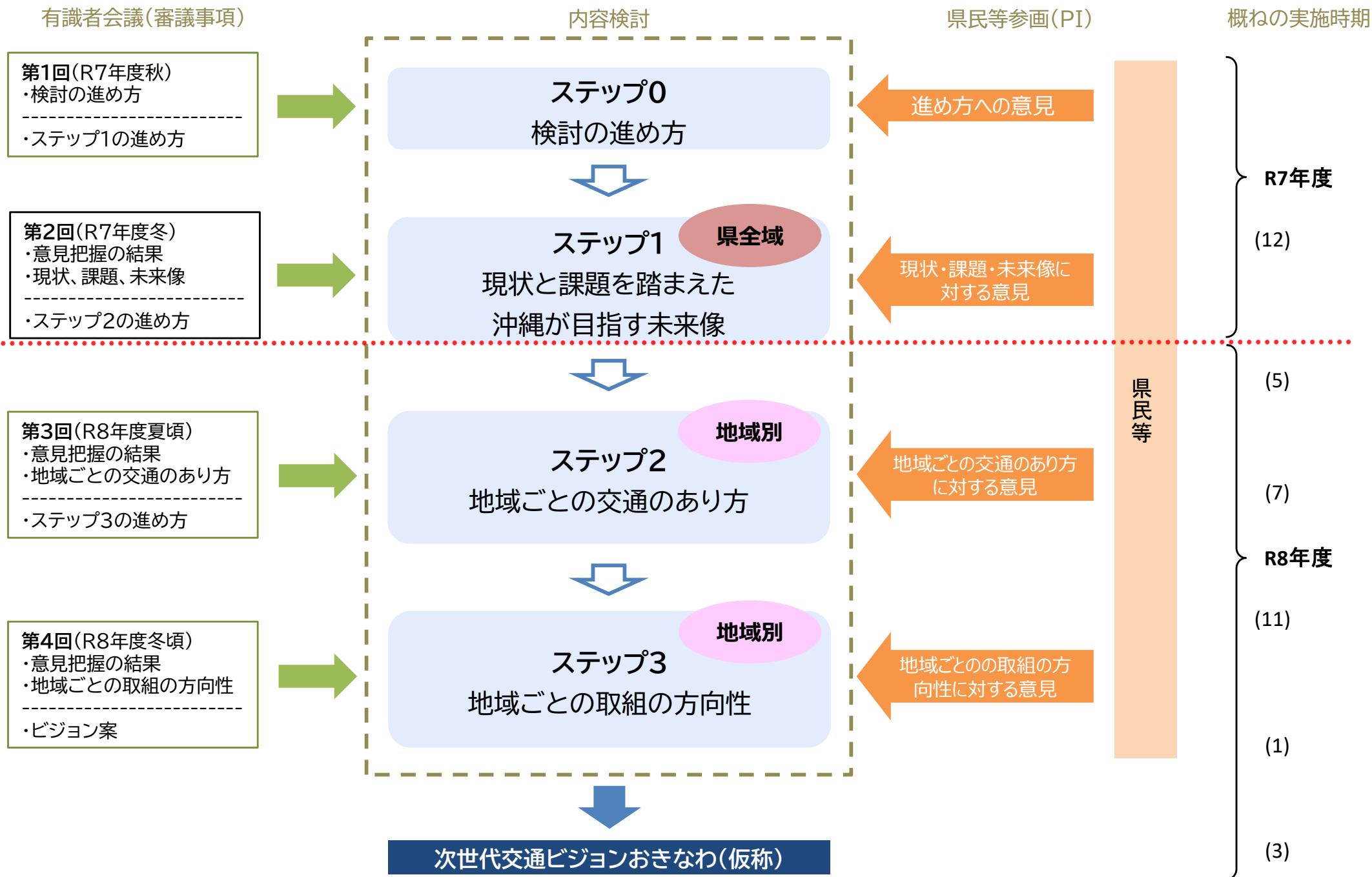
【令和7年度 第2回 策定本部】

～検討プロセス及び令和7年度の実施概要～

1. 検討プロセスの全体像
2. 検討プロセスの状況
3. 令和7年度の実施概要

令和8年3月26日
沖縄県 交通政策課

1. ビジョン検討プロセスの全体像



2. ビジョン検討プロセスの状況

ステップ0 検討の進め方

- ・次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)策定本部 (7/29)
- ・次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)策定に関する有識者会議 (10/23)

ステップ1 現状と課題を踏まえた 沖縄が目指す未来像

- ・県民の意見収集(県内11箇所でのオープンハウスの開催(11/14~12/23))
- ・特設ホームページでのアンケート調査 (11/14~1/15)
- ・若者の意見収集(こども・若者モニターへのアンケート)(12/18~1/15)
- ・高齢者の意見収集(那覇市老人クラブ聞き取りアンケート)(12/4)
- ・庁内関係部局ヒアリング(12/24~1/8)
- ・有識者会議(骨子案に対する意見)(2/9)
- ・庁内関係部局への意見照会 (3/9~3/16)
- ・策定本部 (3/26) ※骨子の決定

ステップ2 地域ごとの交通のあり方

- ・関係団体、市町村、有識者等への意見照会
- ・ワークショップ(交通のあり方の複数案検討)
- ・庁内関係部局への意見照会
- ・有識者会議の意見収集
- ・ワークショップ・オープンハウスの実施(交通のあり方複数案の比較結果)

ステップ3 地域ごとの取組の方向性

- ・有識者会議の意見収集
- ・ワークショップ・オープンハウスの実施(地域ごとの施策案の検討)
- ・パブリックコメント(ビジョンの決定)
- ・庁内関係部局への意見照会、有識者会議の意見照会(ビジョンの決定)
- ・策定本部(ビジョンの決定)

3.令和7年度の実施概要について

(1) 令和7年度の取組概要

実施時期	実施概要
令和7年7月29日	第1回次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）策定本部
令和7年10月23日	第1回次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）策定に関する有識者会議
令和7年11月14日～12月23日	オープンハウスの開催（県内11箇所の商業施設等）
令和7年11月14日～令和8年1月15日	県特設ホームページでのアンケート調査
令和8年2月9日	第2回 有識者会議
令和8年3月9日～16日	骨子案に関する各部局意見照会
令和8年3月26日	第2回 策定本部

(2) 県民意見の聴取

	意見聴取方法及び内容
①	オープンハウス （令和7年11月14日～12月23日） <u>【意見数】530件</u> 【実施場所】 県内各圏域11箇所（サンエー那覇メインプレイス、サンエー西原シティ、イオン南風原、イオン名護、イオン具志川、マックスバリュ宮古西里石垣市役所、ユージュレナモール、とまりん、カフーナ旭橋、てだこ浦西駅）
②	特設ホームページでのアンケート （令和7年11月14日～令和8年1月15日） <u>【意見数】567件</u>
③	こどもモニターへのアンケート （小学生でもわかりやすい平易な内容にして意見聴取） <u>【意見数】35件</u>
④	那覇市老人クラブへの聞き取り調査 （令和7年12月4日） <u>【意見数】20件</u>

3.令和7年度の実施概要について

(3) 主な県民意見

	項目	内容
① 目指す将来像（大切にしたいこと）	交通を通じて実現したい社会の姿として、以下が重視した意見がでた。	
	活動機会の確保	<ul style="list-style-type: none">• 高齢者や子ども・若者、女性、障害者も含めて、日常生活で気軽に、不自由なく移動できることを大切にしたい。• 病院や買い物などの必要な施設に確実に、経済的負担が少なく行けることを大切にしたい。• 子どもたちが遠くても通いたい学校に通え、学校の友達と交流を深め、のびのびと生きられることを大切にしたい。• 子育てしやすく、また、仕事と両立できることを大切にしたい。• 車を運転できない人・歩いている人がかっこ悪いと思われない価値観や、免許がなくとも就職で不利にならないことを大切にしたい。
	自己実現	<ul style="list-style-type: none">• 図書館や博物館などで新しいことを知る、学びの機会を大切にしたい。• スポーツや習い事、芸術鑑賞、興行、ボランティア活動などの余暇活動に自由に行けることを大切にしたい。• 遊びや買い物、飲みに出かけるなど、家族や友人と共に過ごすことを大切にしたい。• 様々な人が、自分らしく、生きがいを持って生きられることを大切にしたい。• 自然にふれあうことを大切にしたい。
	地域の活力創出	<ul style="list-style-type: none">• 県民が沖縄の魅力や個性に関心を持ち、よりよい沖縄に変えていけることを大切にしたい。• 離島や地方を含む沖縄全体が経済格差なく成長し、所得が拡大していくことを大切にしたい。• 自立した沖縄（地元の人が地元のために働いて暮らせる、食の安全保障など）を大切にしたい。• 観光客と共存し、沖縄の観光が発展していくことを大切にしたい。
	暮らしの質	<ul style="list-style-type: none">• 病院や買い物などの必要な施設に確実に、経済的負担が少なく行けることを大切にしたい。• 決まった時間に効率的に行動でき、自分のリズムで移動・生活できることを大切にしたい。• 事故や事件がなく、安全・安心に生きられることを大切にしたい。• 明るいまちの雰囲気大切にしたい。• 日常生活で身体を動かし、健康で、長生きすることを大切にしたい。• 地域の住民同士での交流や助け合いを大切にしたい。• 今住んでいる地域に住み続けられることを大切にしたい。
	社会の持続	<ul style="list-style-type: none">• それぞれの人が自分の好きな移動手段を選べることを大切にしたい。• 沖縄の歴史や、緩やかな時間、各地域特有の文化、平和を尊重する心を大切にしたい。• 沖縄の自然環境を大切にしたい。地球環境を大切にしたい。

3.令和7年度の実施概要について

(3) 主な県民意見

	項目	内容
② 交通の現状と課題	現在の沖縄における交通の問題点として、以下の意見が挙げられています。	
	移動時間の確実性の確保	<ul style="list-style-type: none">●自動車利用率の高さや特定の道路への集中、信号待ち、路上駐車などにより渋滞が発生し、時間が読めない上、人やモノの移動時間がもたない。●観光客の集中や、一部の観光客の運転の不慣れ等により、渋滞や事故のリスクが増加している。
	生活や活動の場へのつながりの確保	<ul style="list-style-type: none">●公共交通の路線や運行本数が少なく、また接続が悪いため、車に頼らざるを得なかったり、仕事や生活に支障が出たりしている。●公共交通の定時性が低く、時間通りに移動できない。
	安全・安心な移動環境の確保	<ul style="list-style-type: none">●交通の混在やマナーの悪さなどにより事故が多く、安全面が心配なので、移動に抵抗を感じてしまう。●観光客の集中や、一部の観光客の運転の不慣れ等により、渋滞や事故のリスクが増加している。
	移動に伴う経済的・時間的負担の軽減	<ul style="list-style-type: none">●自家用車に依存しているため、維持費や燃料費の出費が大きい。●公共交通の運賃が高く（特に乗継時）、出費や利用への抵抗が大きい。
	状況に応じて選べる移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none">●離島に行くとバスやタクシーが少ない地域が多く不便。●交通手段が確保されないことによる離島住民の減少や無人島化、国防への影響が心配。
	人やモノが動く上での経済性の向上	<ul style="list-style-type: none">●移動に時間がかかることで、企業の活動や労働の効率が落ち、経済的な損失が出ていると感じる。●より豊かな経済を求めて、若者や生産年齢層が県外に流出し、沖縄が高齢化してしまうことが心配。
	交通サービスの使いやすさ・分かりやすさの向上	<ul style="list-style-type: none">●駐車場の不足や複雑な道路構造、バスレーンの分かりづらさなどのため都市部で車の移動がしづらい。●公共交通の利用環境（待ち環境や車内混雑、バリアフリー・キャッシュレス対応、運転手のマナーなど）が悪く、利用に抵抗を感じたり移動を躊躇してしまう。
	交通システムや地域の持続性の確保	<ul style="list-style-type: none">●公共交通の利用者の減少や燃料費高騰、運転手不足により公共交通が減少し、自分の将来や周りが移動できなくなってしまうことが心配。●公共交通が減少することで、地方の定住者が減少してしまうことが心配。●インフラの維持管理が追いつかなくなり、老朽化が激しく進んでしまうことが心配。

3.令和7年度の実施概要について

(3) 主な県民意見

	項目	内容
③ 将来の沖縄に対する懸念と期待	将来に向けて、人口減少や技術革新に伴う多様な意見がありました。	
	経済活動や所得水準の低下	●移動効率が悪いことによる経済発展への影響や、所得減少への懸念、さらには県内観光業の縮小を懸念している。
	社会情勢の変化	●人口減少により渋滞が自然解決するという見方がある一方、公共交通の衰退による地方の衰退や、高齢者の事故増加を危惧する声がある。
	新技術への視点	●自動運転やAIによる新たな移動手段への期待がある反面、導入による混乱や利便性低下を心配する意見もある。
	外部要因	●オーバーツーリズムによる混雑、エネルギー価格高騰、気候変動による災害への不安が挙げられている。
④ ビジョン検討の進め方に関すること	計画を策定するプロセス自体についても、具体的な要望が出ています。	
	多様な意見の集約	●離島住民、高齢者、若者、子育て世代、さらには車を運転せざるを得ない人など、幅広い層の声を聴いてほしい
	対話・広報	●行政と県民が意見交換できる場の設定、こまめな情報発信、オンラインでの説明、既存イベントとの連携
	意見の反映	●意見が反映されるのか、少数意見の良い点も汲み取ってほしい
	複数案・比較評価	●公共交通サービスレベルの向上とパーク＆ライドの組合せ、行政のデマンド交通と民間送迎の組合せ、先進事例を基にした検討、持続可能かつ費用対効果が高い施策を推進してほしい
	計画の位置づけ	●各種都市政策との連携、航路や航空路との連携、実効性のあるものとしてほしい
⑤ その他	個別施策に関すること	●公共交通やその他施策に関する意見があった

3.令和7年度の実施概要について

(4) 有識者の意見

策定にむけた有識者会議を2回開催し、委員の意見を反映させた。

【委員】 神谷大介委員（座長）、福田大輔委員、當山裕子委員、大谷健太郎委員、安藤宏恵委員、金城春野委員、石垣綾音委員、澤卓史委員、親川修委員

【第1回】 開催日時：令和7年10月23日 議題：検討の進め方、県民参画プロセス（ステップ0、1）

	主なご意見	対応方針
多様なステークホルダーの巻き込み	<ul style="list-style-type: none">・高専生など、属性を絞ってピンポイントで意見を聞くとよい。・高齢者が求めている移動サービス、観光交通を捌く視点等が重要。・若者の参画が広がるとよい。	<ul style="list-style-type: none">・昨年度の大学生・高校生・移動困難者の意見把握の結果を活用するとともに、主要なステークホルダーに対するヒアリングを検討する。
問いかけ	<ul style="list-style-type: none">・ビジョンや進め方を問う質問が抽象的でわかりづらい。	<ul style="list-style-type: none">・ご指摘をふまえて問いかけを修正する。
オープンハウスの会場	<ul style="list-style-type: none">・ショッピングセンターだけか。公共交通利用者に尋ねなくてよいか。・車利用者に限定されないようにすべき。・広く周知する意味でショッピングセンターで実施する意味はある。	<ul style="list-style-type: none">・ショッピングセンターを中心としつつ、バスターミナルとモジュール駅（てだこ浦西駅・旭橋駅（バスタ同時開催））での追加実施する。

【第2回】 開催日時：令和8年2月9日 議題：県民参画の結果、ビジョン骨子案、県民参画プロセス（ステップ2）

	主なご意見	対応方針
未来像	<ul style="list-style-type: none">・未来像4項目について、抽象的になっていてわかりづらい。	<ul style="list-style-type: none">・未来像については、「移動によって実現する社会」という観点から再整理を行い、移動が社会に果たす役割がより明確に伝わるように文言の具体化を図る。
未来像	<ul style="list-style-type: none">・通院・通学など保障すべき移動と、余暇などの移動は性格が異なり、それは属性と地域によって大きく必要性が異なる。今の未来像は包括的であり解釈の幅が広がりすぎているため、地域差・多様性がある部分を分けて書いた方がよいのではないか。	<ul style="list-style-type: none">未来像(1)については、表現が広範となっていたことから、移動を通じて実現する社会という観点に立ち、「活動機会の確保」と「多様な活動へのアクセス」の2つに再整理する。